

国立大学法人室蘭工業大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

室蘭工業大学は、国際的通用性をもった科学技術者の育成、科学技術分野における知の創造、社会を先導する科学技術に関する教育研究を推進し、学術研究成果を積極的に発信することによる地域発展への貢献を目指している。第2期中期目標期間においては、柔軟な研究領域を組織し、特色ある研究の展開と特定分野における研究の高度化を推進すること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、地域の文化・産業・歴史等の特色に関する授業科目の新設を決定するとともに、学術交流協定校等から研究者を招へいして国際シンポジウムを開催し、国際交流活動を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

大学院博士前期課程において俯瞰的なものの見方を高めるため、所属するコースの主専修授業科目に加えて他コースの系統的に編成した副専修授業科目等を履修させるなどの実践的な教育を実施しているほか、英語による授業を展開し、授業数を増加させることで、国際通用性のあるコミュニケーション能力を育成している。また、人事・給与システムの弾力化を図るとともに大学の機能強化及び教員の多様化を進めるため、年俸制を導入するとともに、シニア教員、重点センター配置の教員等に対して、年俸制への切替を促すため、年俸制導入説明会を開催している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 監事監査結果の大学運営への反映

監事監査結果を踏まえ、大学の戦略的経営や効率的運営を図るため、情報メディア教育センターを工学部附属から全学的な組織に変更し、その業務に新たに学内の情報化推進及び支援に関することを追加し、事務部門への業務効率化、業務システム運用、情報セキュリティの強化等に関する支援を行う体制を整備するなど、大学運営の改善を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載23事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成25年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 外部資金獲得に向けた組織的支援と成果

研究推進室とリサーチ・アドミニストレーション機能を有する社会連携統括本部が連携して、各種研究助成金等の公募情報の周知や競争的外部資金の申請支援を行うことで、科学研究費助成事業、受託研究費、民間等との共同研究、奨学寄付金及びその他の補助金を合わせた件数は 252 件となり、法人化以降最高額の合計 7 億 700 万円を獲得している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- 〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④情報化〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 情報マネジメントシステムに係る国際認証の取得

情報社会の高度化に伴う不正・不祥事の予防及び障害発生時の迅速な対応に努めるため、不正取得ソフトウェアの流入出や個人情報漏えい防止等のコンプライアンス強化にもつながる情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) 及び事業継続マネジメントシステム (BCMS) の国際認証を同時取得し、情報面から大学の戦略的経営をサポートするとともに社会的信頼性の向上につなげている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 地域の文化・産業・歴史等の特色に関する授業科目の新設

地域に貢献できる人材の育成を目的に、地域の文化・産業・歴史等の特色を理解するため、観光、産業等のテーマに沿って、室蘭地域の産業界や自治体職員をはじめとしたゲスト講師によるオムニバス形式で行う授業科目「胆振（いぶり）学入門」を平成27年度から新設することとしている。

○ 「環境調和材料工学研究センター」における先端研究の推進

「環境調和材料工学研究センター」において、羊毛等の動物繊維のタンパク質から樹脂をつくる先端研究を推進しており、「革新的研究開発推進プログラム」（内閣府）の研究開発プログラムの一つである「超高機能構造タンパク質による素材産業革命」の研究開発機関として追加選定されるなど、これまでの実績が高く評価されている。

○ 地域活性化に向けた学生の自発的な取組

学生の自発的な地域活動を促し、地域の活性化につなげるため、室蘭市輪西地区商店街の空き店舗を活用した活動拠点施設として、「室蘭工業大学テクノアゴラ」を新たに開設し、小中高生を対象とした「ものづくり教室」や、複数の発表者が自分の好きな本を紹介するプレゼンテーションを実施し、参加者からの投票の多寡を競う書評会である「ビブリオバトル」等の活動に利用している。

○ グローバル化に向けた国際交流活動の推進

国際交流活動を積極的に推進するため、新たに東義大学校（韓国）並びにパラナ連邦工科大学（ブラジル）等と学術交流協定を締結しているほか、ウェスタンワシントン大学（米国）英語研修、華中科技大学（中国）研修を新設し、合計29名の学生の参加を得ている。加えて、「室蘭工業大学派遣留学・語学研修支援制度」を新設し、派遣留学2名、語学研修17名に滞在費の支援を行っている。